



日時：2018年5月5日（土：こどもの日）

集合：JR大磯駅9:45 出発10:00

コース：大磯駅→島崎藤村旧宅→東海道松並木→伊藤博文公滄浪閣跡→こゆるぎ緑地→吉田茂邸
（入館料¥450）→県立大磯城山公園（昼食）→馬場公園（神輿揃い踏み）→六所神社
→国府新宿（バス）→平塚駅 1,400歩 約10km（伊藤自宅含め約20,000歩）

参加者：高橋文L・河野SL・市村SL含め合計45名 赤字：感想文 青字一般参加（鈴木さん入会）

- | | | |
|----|---|-----|
| 1班 | 班長：志村・佐藤よ・平嶋・奴田・小野里・小林・伊藤美・渡辺・奥村・上曾山道子・岩元
・上曾山（道子主人） | 12名 |
| 2班 | 班長：山川・勅使河原・小作・安永・青松・河野・小島・桑原・中林・村上・吉岡 | 11名 |
| 3班 | 班長：清水正・吉越・神谷・高橋文・佐藤繁・松村・市村・山本・長廣・仁井・鈴木 | 11名 |
| 4班 | 班長：落合・吉野・平石・伊藤真・新谷・宮野・中村ゆ・武倉・滝川・畠・竹内 | 11名 |

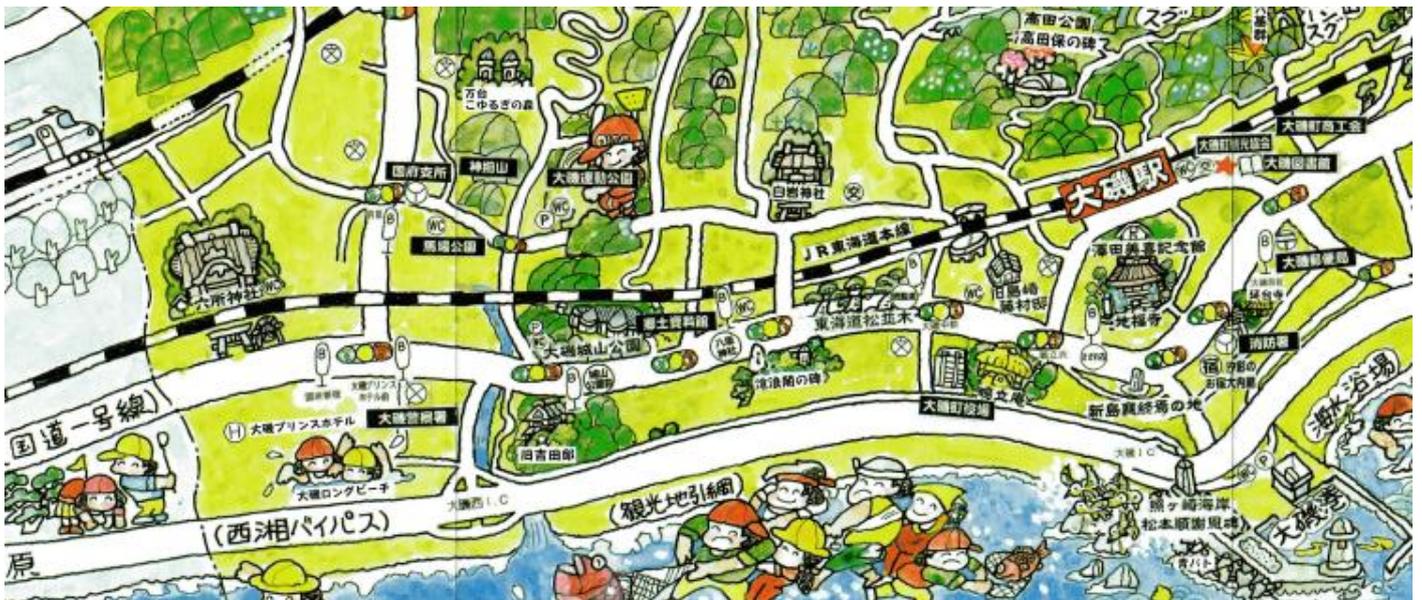
今日は快晴の子供の日。流石に帽子無しでは暑く日焼けする。夏用麦わら帽子持参で正解でした。

大磯は富士山も見える眺望の良い海岸沿いの高級別荘地。旧東海道松並木を歩いて、明治維新後の近代日本国を
発展させた伊藤博文や、2009年原因不明の出火で全焼、2017年4月1日再建公開された吉田茂邸入館
歴史と素晴らしい庭園を見学。富士山も見える城山公園で昼食。流石に今日は休日、テーブル席は他のウォーキン
グ仲間に占領されていましたが、奥の公園には日陰の最高の場所もありました。綺麗に咲き誇る石南花をバック
に集合写真。午後は今日の首題相模国府（こうのまち）神輿祭見学。六社参加の金箔神輿が素晴らしい。
帰りはバスで大磯経由平塚駅、ラクチンウォーキングでした。

今回小島レポーター参加されていましたが、新規購入のビデオカメラの使い始めの為、レポーターを依頼され
ました。久しぶりの高橋L平塚地区の祭企画、富士山にも歓迎され最高の例会ウォーキングでした。

河野、市村SLも下見を含め有難うございました。

【大磯イラストマップ】(HPより引用)



J R大磯駅 久しぶりの下車でした

高橋文L参加者チェックと河野SLお迎えと資料配布



J R東海道線沿いを歩く45名連隊



最初の見学「島崎藤村邸」



島崎藤村邸

藤村は、明治三年(一八七〇年)二月十七日筑摩県第八大区五小区馬籠村(現在、木曾郡山口村神坂区馬籠)の本陣の家に生まれ、本名を春樹という。昭和十六年(一九四一年)一月十四日大磯のドンドン焼を見に来て珍しい郷土行事であるのをよろこばれ、これを左義長と言いつ初められた。

大磯の温暖な地をこよなく愛し、その春、大磯町東小磯のこの地に生まれ、「東方の門」の筆を起こしたのであった。藤村は、「葉舟」「夏草」などの詩集を刊行して日本近代詩史に不滅の名を刻み他に文明批評随筆、旅行児童文学など数多くを残している。昭和十八年(一九四三年)八月二十一日静子夫人が「東方の門」の原稿を朗読中頭痛を訴え急に倒れた。八月二十二日午前零時三十五分「涼しい風だね」という言葉を残して木曾の生んだ大文豪は行年七十一才で永眠され、本人の希望により大磯地福寺に葬られた。

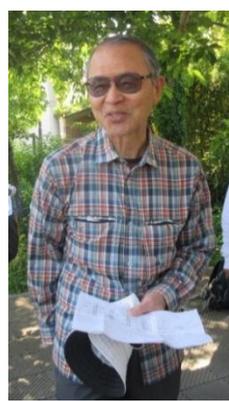
2018/05/0

三間の平屋建ての民家 で外壁には杉の皮、引き戸には大正ガラス(現在は希少)が使われている。小さい素朴な冠木門に割竹垣に囲まれた小庭。カナメやモチの若葉、朝顔や萩、湯河原から取り寄せた寒椿が花を咲かせる小庭の眺めは藤村の心の慰めで、この家を「静の草屋」と呼んでいた。また簡素を信条とする藤村の気配りが今も感じられる。

見学する前に前の小さな公園でストレッチし、高橋Lから、コース説明とSL、班長、初参加者紹介



2年前膵臓癌手術、回復された吉野会長挨拶後、今日一般参加3人の紹介。上曾山道子主人、鈴木、竹内さん



島村藤村邸内見学 女性管理人説明 庭園

邸外観（公園から見る）



旧東海道松並木を歩く

陸橋を渡る

先頭高橋L新緑に赤帽が映えます！



別荘地となる以前の大磯は、宿場町として栄えてきました。鎌倉時代は古東海道の宿駅であり、鎌倉郊外の保養都市（若殿輩の遊び場）でした。慶長5年（1600）の関が原の合戦に勝利をおさめた徳川家康は、慶長6年には東海道に宿駅の制度を設け、その整備を行っています。次いで慶長9年には36町を1里（約3.9キロメートル）として一里塚をつくり、街道筋にはマツやエノキなどが植えられました。

松並木が途切れたあたりに明治の元勳 伊藤博文公邸跡の**滄浪閣**。現在はプリンスホテルの持ち物で、結婚式場と中華料理の大磯滄浪閣という施設になっている。右脇に「伊藤公滄浪閣之舊蹟」の石碑があるが



落ち葉絨毯歩きは最高気分

松と青空の下の熟女軍団

こちらは熟男軍団も足取り軽やか！



大磯「太平洋自転車道」を、白い波と海を眺めながら

時々前後から自転車が来る 先発隊は男性が引っ張る

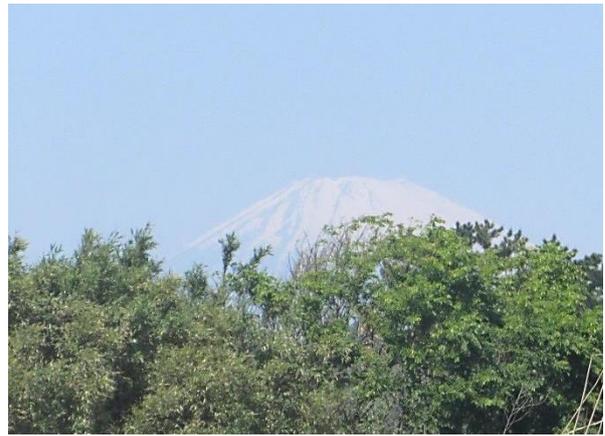


大磯町の西側、西湘バイパスに沿って造られた自転車専用道路。西は不動川下流付近まで、東は 134 号線に沿ってすすみ、花水川手前で金目川サイクリングコースへと繋がっていきます。自転車でサイクリングはもちろん、ダイナミックな海を眺めながらランニングやウォーキングを楽しむ人も多く見られます。

先発隊に元気の良い熟女が加わりました



富士山が見えてきたぞ～！



10:52 目指す旧吉田茂邸後700m



旧吉田邸入口お見事満開バラの歓迎を受ける



バラ棚を潜る高橋L



こちらは正門入口からご入場の山川班長 立派な茅葺門です



1946年3月焼失後、昨年4月再建公開 入館料団体割引¥450 河野SL女性軍、市村SL男性軍入館者

旧吉田茂邸の再建
旧吉田茂邸は、吉田茂の養父、吉田健三氏が、明治十七年に別荘として建築したもので、その後、増改築を重ね、吉田茂が昭和十九年頃から、その生涯を閉じる昭和四十二年、八十九歳までを過ごした邸宅でした。
家建て近代的な数寄屋檜作りの本邸は、建築家吉田五十八氏の設計のもと、京都の宮大工により建築されました。
政界引退後も多くの政治家が「大磯詣」を行い、また、国内外の要人が招かれるなど、近代政治の舞台ともなりました。
平成二十一年三月、旧吉田茂邸は焼失してしまい、一般公開されました。

日本庭園
この日本庭園は、池を中心とその周囲を散策して自然の移り変わりを愛するもので、「池泉回遊式」と呼ばれています。
設計者である造園家中山健氏は、数寄屋建築の本邸との調や花を愛した吉田茂の嗜好を、ふまえて、様々な草花やツツジ類、ウメなどを多く取り入れ、色彩豊かな庭造りを行い、昭和三十六年頃に庭園が完成しました。
年月を経て、肥大化した樹木の切戻しを主とする剪定や、表えてしまった松林を庭園の背景に戻すための育成を行い、吉田茂が晩年散策していた当時の雰囲気を感じ取ることができるよう、昭和四十年代の景観を復元し、その姿を維持するよう管理しています。

団体割引¥450 集金大変でした。
11:20~12:00見学
邸宅中から見る庭園、外回りは海が見渡せる丘上の吉田茂像と浜辺、そして富士山の眺めが最高です。
丘を含む広い庭園と邸宅です。

庭園で集合写真（逆光で顔が陰に）お話し中の方もおられますが・・・



玄関

楓の部屋

部屋に飾られた吉田茂額



浴室

2階「金の間」から富士山が見えます 障子窓も素晴らしい



吉田茂肖像画

昭和53年(1978) 松本弘一・画
727mm×606mm

自由民主党寄贈。作者の松本弘一は自由民主党の初代総裁から第13代総裁まで、歴代総裁の肖像を描いた。本肖像画は吉田茂生誕100年記念の際に描かれた。



2階縁から庭を見る



旧家屋跡地



庭園頂上の銅像



銅像は、地元有志の方々による建立委員会によって、昭和五十八年に建立されました。
お顔は講和条約締結の地、サンフランシスコを向いています。
碑文には左記のように書かれています。

その眼はつねに、現在を超えて、遠く将来にすえられていた。吉田茂が卓越したところは、そこにあった。
昭和のなかば、外務次官、イギリス大使だったとき、日独伊三国軍事同盟に反対したのも、それがやがて米英との戦争を誘発し、日本の敗戦を招来すると予見したからである。軍部からの弾圧を恐れることなく、終戦工作にはたつき、ために獄に投ぜられる。
戦争が終つて、吉田茂を必要とする時代がおとすれた。二十一年五月に、総理大臣となり、さらに自由党総裁に推された。その後、ひとたびは政権を他の党に委ねたが、二十五年から二十九年まで、連続して五次にわたつて政権を担当した。

この間、戦後日本の憲法、政治、外交、経済、社会体制すべて、吉田内閣の手によつてこのえられた。特に日本を敗戦と領土からとき放し、日本に独立をもたらししたサンフランシスコ対日平和条約は、吉田首相が二十六年九月に、突かせたものであった。これこそは、日本歴史の金字塔である。三十一その間、吉田茂は総裁として、戦後の保守党の本流を形造つた。三十一に誕生した自民党は、吉田自由党がみなもとになっている。総裁・首相となつた池田勇人・佐藤栄作たち、いずれも吉田学校の門下生である。多くの人材輩出も吉田の残した功績の一つであった。

俗にも吉田と呼ばれて、その意志と私の強さをつらぬき通す一方、ウィットとユーモアに富んで、座談の名手でもあった。
戸川猪佐武 撰

庭園散策 小高い山の麓に邸宅、そして広い庭と池。



大磯城山公園 10,000歩
(昼食 12:10~12:50)



唯一展望台中央椅子組

椅子持参組

囲いのコンクリート縁椅子替わり



途中で会ったウォーキング軍団に占領されて展望台中央テーブル付椅子はごく僅か丈。
しかし公園奥には広場がありました。

奥の公園には最高の木陰昼食場あり



先程見学した、旧吉田茂邸と昼食場所の展望台とふれあい広場のイラストマップ 道路を挟んで隣り合わせです



法雲門

展望台とモデルは石南花集合写真撮影者、小島さん (P 1 巻頭集合写真は伊藤撮影)



←記念集合写真撮影後展望台を下り、もみじの広場・不動池に下る。

小洞綾の滝



不動池



何故か山羊さん1匹歓迎？



不動川の清流沿いの道を歩く。



鯉が沢山いました



不動川の向かいはJ R東海道線



今日のメイン「馬場公園（神輿揃い踏み）」会場到着 13：10



【六所神社】(HPより引用)



大化の改新以前、今の 大磯町 より東に「相武（さがむ）」、西に「磯長（しなが）」という国があり、その二つの国を合併して相模国が成立しました。相武の国の最も大きな神社が寒川神社、磯長の国の最も大きな神社が川勾神社であったことから、両国の合併にあたり、どちらが一番大きな神社であるか

決めることとなり、論争が起こりました。この論争の様子が儀式化され神事となって伝わったのが座問答です。座問答では虎の皮を使い神事を進めます。虎の皮を上位に進めることは、当神社が相模国一番の神社、即ち一宮であるということを示しており、又次にそれより上に押し進める事は、いやいや当神社こそ相模一宮であるという意味です。それを三度繰り返すことは、長い長い論争があったことを表しています。その仲裁として比々多神社の宮司様の「いづれ明年まで」という言葉で解決されるわけですが、いづれ明年が 1000 年以上続いてしまった事を考えると、勝・負のない神様らしい円満解決の様様であると思います。

【六所神社】 13：20～14：20 見学

- ・一之宮 寒川神社（寒川町）
- ・二之宮 川勾（かわわ）神社（二宮町）
- ・三之宮 比々多（ひびた）神社（伊勢原市）
- ・四之宮 前鳥（さきとり）神社（平塚市）
- ・平塚八幡宮（平塚市）
- ・総社六所神社（大磯町）

六所神社の神輿が入場すると舟形舞台上で「鷺の舞」が舞われ、神楽舞奉納が行われる。「鷺の舞」は3種の舞により構成されており、「鷺の舞」が天下泰平、「龍の舞」が五穀豊穰、「獅子の舞」が災厄消除を祈願すると伝えられている。六所神社の社伝によれば、「鷺の舞」は平安時代に国司をはじめ貴族をもてなすための舞であったのだと言う。茶店も沢山出ており、御神水で咽喉を潤わせてもらいました。次頁P 9、P 10に写真有。P 8

・馬場公園【相模国府（こうのまち）神輿揃い踏み】

最初に「総社六所神社」神輿が会場の馬場公園に入ってきた。 定位置まで。 三種の舞も船形屋台で。 金箔の神輿が素晴らしい。 総社六所神社の次は先述一之宮神社から順番に入る。 総社六所神社神輿



←一の宮寒川神社神輿入場

【総社六所神社】 ここのおみくじ「湯津爪櫛御守の御神徳」をお勧めしました。



湯津爪櫛御守の御神徳

この御守りは、当六所神社の御祭神稲田姫命様の霊力が籠る奇魂の聖で、高い神秘力を持つ御守りです。

一、この御守りを女性が身に付けたら、奇霊の霊力が湧き、不慮の災難、事故いやがら厄等から身代りとなり守りつづけます。

二、この御守りを未婚の女性が身に付けたら、御神縁の良縁の道が開かれます。

三、この御守りを女性から因こいる男性に、真心籠る念じ贈ると、男性に霊力が湧き、困難打開の道が開かれます。

四、この御守りを男性から女性に贈ると、「かけがえない大切な女性」の証となります。

201

718年に現鎮座地に遷座。鎌倉時代には源頼朝より、戦国時代には小田原北条家より、江戸時代には徳川家康より篤い崇敬を受ける。ご本殿は小田原北条家が造営したもので、造営当時は全体が朱色に塗られていました。相模国内の神社の本殿では大変大型で、相模の神々のための五つの御扉が特徴です。

「鷺の舞」

平安朝の貴族達が酒宴を開くとき、庭先の池に船を浮かべて、歓送迎の楽を奏でて、酒宴の時には舞を舞って歓迎の意を表しました。この舞が鷺の舞であって、大磯には国司によって伝えられました。

船形舞台で舞われる「鷺の舞」は、日本全国で神奈川県大磯町、中井町だけでしか行われていない大変貴重なものです。大磯場では他にも龍の舞、獅子の舞が舞われ、鷺の舞は天下泰平を、龍の舞は五穀豊穡を、獅子の舞は災厄消除を祈願すると伝えられています。（HPより引用）



鷺の舞



龍の舞



獅子の舞



バス停に向かう 国府新宿バス停 14:50着 15:09大磯駅経由大塚駅行（アフター参加者18名）



編集後記：5月の例会は好天に恵まれ、松原や大磯海岸を富士山眺めて歩き、新築再建された旧吉田邸見学と大磯城山公園での昼食、最後に相模国府祭で最高に盛り上がったウォーキングでした。緑の新緑にクスノキの黄色い城山。大磯海岸白い波内、大山連峰の上に、真白き富士山、自然と歴史の豊かな体験をさせて戴きました。改めて高橋Lに厚くお礼申し上げます。

平塚でのアフター最初に注文した料理2品催促すれども最後まで出ませんでした。高橋Lを含め長老組4人と、69歳若手友達2人、一般参加の鈴木さん入会宣言され、ウォーキング談話で盛り上がりました。いつもの拙いボケ防止用日記帳、「メモと写真」です。誤字や失礼な記述があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。説明文はHP他から引用しました。